

2022
講義要綱
SYLLABUS

北翔大学大学院

GRADUATE SCHOOL, HOKUSHO UNIVERSITY

令和4年度 北翔大学・北翔大学短期大学部 学事日程

月		火		水		木		金		土		日		備考
								4 / 1		4 / 2		4 / 3		
4 / 4		4 / 5	在学生 オリエンテーション	4 / 6	入学式	4 / 7	オリエンテーション	4 / 8	オリエンテーション	4 / 9		4 / 10		教科書Web販売(～4月下旬)
4 / 11	①	4 / 12	①	4 / 13	①	4 / 14	①	4 / 15	①	4 / 16		4 / 17		教育学科看護教諭コース3年次 看護実習：4 / 8～4 / 28
4 / 18	②	4 / 19	②	4 / 20	②	4 / 21	②	4 / 22	②	4 / 23		4 / 24		
4 / 25	③	4 / 26	③	4 / 27	③	4 / 28	③	4 / 29	昭和の日	4 / 30		5 / 1		
5 / 2	④	5 / 3	憲法記念日	5 / 4	みどりの日	5 / 5	こどもの日	5 / 6	③	5 / 7		5 / 8		スポーツ教育学科・教育学科音楽コース・芸術学科4年次 教育実習Ⅰ・Ⅱ(中・高) 5月～10月
5 / 9	⑤	5 / 10	④	5 / 11	④	5 / 12	④	5 / 13	④	5 / 14		5 / 15		
5 / 16	⑥	5 / 17	⑤	5 / 18	⑤	5 / 19	⑤	5 / 20	⑤	5 / 21		5 / 22		こども学科2年次 教育実習：5 / 16～6 / 3
5 / 23	⑦	5 / 24	⑥	5 / 25	⑥	5 / 26	⑥	5 / 27	⑥	5 / 28		5 / 29		
5 / 30	⑧	5 / 31	⑦	6 / 1	⑦	6 / 2	⑦	6 / 3	⑦	6 / 4		6 / 5		
6 / 6	⑨	6 / 7	⑧	6 / 8	⑧	6 / 9	⑧	6 / 10	⑧	6 / 11		6 / 12		
6 / 13	⑩	6 / 14	⑨	6 / 15	⑨	6 / 16	⑨	6 / 17	⑨	6 / 18		6 / 19		健康福祉学科(介護)4年次 訪問介護実習：6 / 20～7 / 1
6 / 20	⑪	6 / 21	⑩	6 / 22	⑩	6 / 23	⑩	6 / 24	⑩	6 / 25		6 / 26		健康福祉学科(介護)2年次 介護基礎実習：6月下旬～7月上旬
6 / 27	⑫	6 / 28	⑪	6 / 29	⑪	6 / 30	⑪	7 / 1	⑪	7 / 2		7 / 3		教育学科看護教諭コース2年次 看護学臨床実習：7月～9月
7 / 4	⑬	7 / 5	⑫	7 / 6	⑫	7 / 7	⑫	7 / 8	⑫	7 / 9		7 / 10		
7 / 11	⑭	7 / 12	⑬	7 / 13	⑬	7 / 14	⑬	7 / 15	⑬	7 / 16		7 / 17		
7 / 18	海の日	7 / 19	⑭	7 / 20	⑭	7 / 21	⑭	7 / 22	⑭	7 / 23		7 / 24		
7 / 25	⑮	7 / 26	⑮	7 / 27	⑮	7 / 28	⑮	7 / 29	⑮	7 / 30		7 / 31		
8 / 1	補講・試験日	8 / 2	補講・試験日	8 / 3	補講・試験日	8 / 4	補講・試験日	8 / 5	補講・試験日	8 / 6		8 / 7		こども学科2年次 保育実習Ⅰ・Ⅱ(保育所)：8月～9月
8 / 8		8 / 9		8 / 10		8 / 11	山の日	8 / 12		8 / 13		8 / 14		心理カウンセリング学科4年次 精神保健福祉援助実習：8月～9月
8 / 15		8 / 16		8 / 17		8 / 18		8 / 19		8 / 20		8 / 21		心理カウンセリング学科3年次 心理実習：8月～9月
8 / 22		8 / 23		8 / 24		8 / 25		8 / 26		8 / 27		8 / 28		教育学科4年次 保育実習Ⅱ又は保育実習Ⅲ： 8 / 18～8 / 31
8 / 29		8 / 30		8 / 31		9 / 1		9 / 2		9 / 3		9 / 4		教育学科3年次 教育実習(幼・小)： 幼稚園8 / 22～9 / 9 小学校8月中旬～9月中旬
9 / 5	創立記念日	9 / 6		9 / 7		9 / 8		9 / 9		9 / 10		9 / 11		健康福祉学科(介護)3年次 介護実習Ⅱ：8 / 15～9 / 23
9 / 12		9 / 13		9 / 14		9 / 15		9 / 16		9 / 17		9 / 18		健康福祉学科(社)3年次・健康福祉学科(介)4年次 相談援助実習：8 / 17～9 / 20
9 / 19	敬老の日	9 / 20		9 / 21		9 / 22	オリエンテーション	9 / 23	秋分の日 大学祭準備	9 / 24	大学祭	9 / 25		教科書Web販売(～10月中旬)
9 / 26	①	9 / 27	①	9 / 28	①	9 / 29	①	9 / 30	① 前学期学位記授与式	10 / 1		10 / 2		こども学科2年次 保育実習Ⅰ(施設)：9月～12月
10 / 3	②	10 / 4	②	10 / 5	②	10 / 6	②	10 / 7	②	10 / 8		10 / 9		
10 / 10	スポーツの日	10 / 11	③	10 / 12	③	10 / 13	③	10 / 14	③	10 / 15		10 / 16		
10 / 17	③	10 / 18	④	10 / 19	④	10 / 20	④	10 / 21	④	10 / 22		10 / 23		
10 / 24	④	10 / 25	⑤	10 / 26	⑤	10 / 27	⑤	10 / 28	⑤	10 / 29		10 / 30		
10 / 31	⑤	11 / 1	⑥	11 / 2	⑥	11 / 3	文化の日	11 / 4	⑥	11 / 5		11 / 6		
11 / 7	⑥	11 / 8	⑦	11 / 9	⑦	11 / 10	⑥	11 / 11	⑦	11 / 12		11 / 13		
11 / 14	⑦	11 / 15	⑧	11 / 16	⑧	11 / 17	⑦	11 / 18	⑧	11 / 19		11 / 20		
11 / 21	⑧	11 / 22	⑨	11 / 23	勤労感謝の日	11 / 24	⑧	11 / 25	⑨	11 / 26		11 / 27		
11 / 28	⑨	11 / 29	⑩	11 / 30	⑨	12 / 1	⑨	12 / 2	⑩	12 / 3		12 / 4		
12 / 5	⑩	12 / 6	⑪	12 / 7	⑩	12 / 8	⑩	12 / 9	⑪	12 / 10		12 / 11		
12 / 12	⑪	12 / 13	⑫	12 / 14	⑪	12 / 15	⑪	12 / 16	⑫	12 / 17		12 / 18		
12 / 19	⑫	12 / 20	⑬	12 / 21	⑫	12 / 22	⑫	12 / 23	⑬	12 / 24		12 / 25		
12 / 26	⑬	12 / 27		12 / 28		12 / 29		12 / 30		12 / 31		1 / 1	元日	
1 / 2	振替休日(元日)	1 / 3		1 / 4		1 / 5		1 / 6		1 / 7		1 / 8		
1 / 9	成人の日	1 / 10		1 / 11	⑬	1 / 12	⑬	1 / 13	⑭	1 / 14		1 / 15		
1 / 16	⑭	1 / 17	⑭	1 / 18	⑭	1 / 19	⑭	1 / 20	⑮	1 / 21		1 / 22		
1 / 23	⑮	1 / 24	⑮	1 / 25	⑮	1 / 26	⑮	1 / 27	補講・試験日	1 / 28		1 / 29		
1 / 30	補講・試験日	1 / 31	補講・試験日	2 / 1	補講・試験日	2 / 2	補講・試験日	2 / 3		2 / 4		2 / 5		心理カウンセリング学科3年次 精神保健福祉援助実習：2月～3月
2 / 6		2 / 7		2 / 8		2 / 9		2 / 10		2 / 11	建国記念の日	2 / 12		心理カウンセリング学科2年次 心理実習：2月～3月
2 / 13		2 / 14		2 / 15		2 / 16		2 / 17		2 / 18		2 / 19		教育学科3年次 保育実習Ⅰ(保育所)：2 / 6～2 / 18
2 / 20		2 / 21		2 / 22		2 / 23	天皇誕生日	2 / 24		2 / 25		2 / 26		健康福祉学科(介護)2年次 介護実習Ⅰ：2 / 13～3 / 10 (事前実習：2 / 6～2 / 7)
2 / 27		2 / 28		3 / 1		3 / 2		3 / 3		3 / 4		3 / 5		教育学科3年次 保育実習Ⅰ(施設)：2 / 27～3 / 11
3 / 6		3 / 7		3 / 8		3 / 9		3 / 10		3 / 11		3 / 12		
3 / 13		3 / 14		3 / 15		3 / 16		3 / 17	学位記授与式	3 / 18		3 / 19		
3 / 20		3 / 21	春分の日	3 / 22		3 / 23		3 / 24		3 / 25		3 / 26		
3 / 27		3 / 28		3 / 29		3 / 30		3 / 31						

※新型コロナウイルス感染症の影響により、変更となる場合があります。

講義要綱 SYLLABUS の利用にあたって

この冊子は、2022（令和4）年度に開講される授業科目の概要が記載されています。

授業の概要や到達目標をよく確認して授業を選択する参考にしてください。シラバスには、授業の担当教員名や、単位数等の他、次のような事項が記載されています。シラバスに記載された内容をよく理解し、授業に臨んでください。

- ・ 授業のねらい
- ・ 到達目標
- ・ 授業計画
- ・ 準備学習の内容（事前・事後の学習）
- ・ 使用するテキスト（教科書）や、参考書
- ・ 成績評価の方法（どのような基準で評価が決まるのか）
- ・ 質問への対応（連絡先など）
- ・ その他（履修に当たっての特に注意すべき事項が記載されています）

《学習形態》

「授業の計画」各回の右欄に書かれている記号は学習形態を表し、授業の進め方、指導方法を表しています。

学習形態の用語説明

記号	学習形態	概要説明
A	講義	
B	演習	
C	実験	
D	実習	
E	実技	
F	プレゼンテーション	学生が、指示されたテーマや課題について、グループもしくは単独で調査・学習・実習等を行い、そのことについて他の受講生や教員等聴衆の前で発表する学習方法である。発表形式は、パワーポイントなどの情報機器を活用したものやポスターセッションなど様々である。発表後は、聴衆からの質疑に応答する。〇〇発表会、〇〇報告会等を含む。
G	レポートライティング	与えられたテーマや課題について調査や実験等を行い、調べた事実やデータを分析して、その過程と結果・考察などを文書にまとめる。あるいは、授業で学習したことを自分の言葉でまとめたり、自分の経験したことや体験したことなどについて、感じたことを理由とともにまとめるなど、知識や経験を自分の力で文書で表現する学習方法である。
H	グループワーク	教員から与えられた課題に対して、小グループ（3人から6人程度が一般的）内で共同作業やコミュニケーションをとりながら学修を進めていく協同学習である。コミュニケーション能力、メンバーが役割を分担した上で相互に協力・協働して課題に取り組む姿勢、自分の意見を主張する力と他人の意見を受け入れる力、決められた時間内に課題を解決して答えを出す力などを養成し、学生が社会に出てから活動するために必要な力を身につける。

I	ディベート	ある公的な主題について異なる立場（肯定側と否定側）に分かれ議論することを通して、第三者を客観的な証拠に基づいて説得するコミュニケーション形態（討論をする形式）である。 ディベートを通して学生の思考が活性化され、自分の意見や問題意識を持ったり、より論理的な考え方ができるようになるといった効果が期待される。
J	事例研究	ある事例について調査・研究し、問題の所在・原因を究明し、どのように対処するか解決策を見出す学習活動である。指導者は、学生の個別または集団研究に対して、研究の場を設定し、具体的な助言をしたり、事例を紹介したり、研究をコーディネートしたりして、学生の研究を導く立場で関わる。
K	ワークシート	授業前あるいは授業中に、学習の課題や問題等を提示した用紙を用い、調べたことや理解したことを確認し、理解の深化を促す学習方法である。また、講義の内容を書き込めるように準備された用紙等で理解の確認を行ったり、ワークシートに記入された個々の考えをもとに、ペアやグループワークで話し合い、学習内容を共有することもある。
L	ふり返し	授業の途中や終了時に、理解したことや分からなかったこと等について確認を行い、理解の促進を図る学習方法である。確認の方法としては、振り返りシート等の記入、ペア・グループワークによる意見の共有などがある。
M	フィールドワーク	社会調査における情報収集技法の一つである。研究者が直接現場へ出かけ一定期間滞在し、人々の生活に密着しながら出来事を観察・記述し、その空間の社会的構造をリアルに分析しようとするものである。 アクティブ・ラーニングの視点から、本学での「フィールドワーク」とは教員が提示したテーマや課題等について、学生が直接現場へ出かけ実地調査や研究等を通して、より深く分析し課題解決に向かうことをねらいとした学習形態である。
N	ロールプレイ	現実にかかる場面を想定して、参加者がそれぞれに与えられた役割を演じ（ロールプレイ）、疑似体験（シミュレート）をする学習方法である。技術・技能の修得や、現実的なケースにおける多面的な見方、態度・姿勢の涵養、他人の立場への理解などを促進する際に効果的である。

教 育 課 程 表

臨床心理学専攻 修士課程 専門科目

○単位は必修

科目名	授業 形態	年次・単位数		教員名	展開他	免許・資格	ページ
		2 年次					
		前	後				
臨床心理学領域							
家 族 心 理 学 特 論 (家族関係・集団・地域社会における 心理支援に関する理論と実践)	講義		2	河 岸 由里子	集中講義	[臨]臨床心理士_選必、公認心理師_必修	23
心 理 療 法 特 論	講義	2		入 江 智 也	隔年開講 (※)	[臨]臨床心理士_選必	24
学 校 臨 床 心 理 学 特 論 (教育分野に関する理論と支援の展開)	講義		2	山 谷 敬三郎		[臨]公認心理師_必修	25
基礎心理学領域							
認 知 心 理 学 特 論	講義	2		阿 部 純 一	隔年開講	[臨]臨床心理士_選必	26
社 会 心 理 学 特 論	講義		2	栗 林 克 匡	隔年開講	[臨]臨床心理士_選必	27
実 習							
臨 床 心 理 実 習 I (心 理 実 践 実 習 II)	実習	←⑧→	風 間 雅 江	事前事後指導を含む 一部集中講義 (※)	[臨]臨床心理士_必修、公認心理師_必修	28	
			飯 田 昭 人				
			小 坂 守 孝				
			澤 聡 一				
			新 川 貴 紀				
			入 江 智 也				
臨 床 心 理 実 習 II	実習	←①→	小 坂 守 孝	一部集中講義 (※)	[臨]臨床心理士_必修	29	
			飯 田 昭 人				
			入 江 智 也				
			風 間 雅 江				
			澤 聡 一				
			新 川 貴 紀				
			斉 藤 美 香				
			谷 中 みゆき				
研究指導							
修 士 論 文 指 導 II	演習	②		担 当 教 員	集中講義		30
修 士 論 文 指 導 III	演習		②	担 当 教 員	集中講義		31

(※)日本臨床心理士資格認定協会が定める臨床心理士養成指定科目の受講制限により、上記資格の養成指定を受けた臨床心理学専攻以外の方は受講できません。また他の科目についても、国家資格公認心理師の指定科目等として受講制限が設けられている科目があります。

人間福祉学研究科
臨床心理学専攻
修士課程 2年次

科 目 名		家族心理学特論(家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践)		授業形態	講義	単 位 数	2
教 員 名		河 岸　由里子					
授 業 の 目 的	ねらい	対人援助の仕事をするには、家族の理解は不可欠である。人は一人で生きてはいない。子どもであればその保護者が、大人であって育てた親や配偶者、あるいは子どもなどがいる。それぞれの家族は現状に大きく影響している。特に昨今家族は複雑化している。さまざまな家族の形を含め、家族とは何か、家族心理学の発展から家族療法の技法、地域社会や集団・組織への関りも含め事例を多く活用し、演習やDVDを用いながら学ぶ。					
	到達目標	(1)家族を理解することの重要性について認識する。 (2)家族療法の技法の基礎を習得する。 (3)家族のみにとどまらず、地域社会や集団・組織に働きかける心理学的援助、関係性に焦点を当てた援助に関する理論と方法を学ぶ。 (4)心理的援助者としての臨機応変さを習得する。					
授 業 の 計 画	第1回	【テーマ】家族心理学が担うもの 【計画内容】家族心理学の歴史と理論について基礎的なところを学ぶ。 【授業時間外の学修内容】家族心理学について、自分なりにどういうものか文献などを確認しておくこと。	A	第9回	【テーマ】思春期・青年期の子育て 【計画内容】子育ての終盤に向かい、家族はどうあるべきか。またどのような問題が起こりやすいか。最近の社会情勢から見えるものも含め、その支援について学んでいく。 【授業時間外の学修内容】子育ての最終目標は何かについて考えておくこと。	A	
	第2回	【テーマ】家族とは何か 【計画内容】様々な家族の形態を事例を通して学びながら、家族とは何かについて考える。 【授業時間外の学修内容】自分なりに、どのような家族の形態があるかについて考えておくこと。ジェノグラムを書けるようにしておくこと。	A	第10回	【テーマ】老年期の家族 【計画内容】高齢化社会の時代において、老年期の家族が抱える問題と支援について学ぶ。 【授業時間外の学修内容】自分の身の回り的高齢者について、その家族とどのような関係性を保っているかを見ておくこと。	A	
	第3回	【テーマ】家族の見立て(1) 【計画内容】家族を理解するうえでカギとなる概念について学ぶ。 【授業時間外の学修内容】家族理解の鍵となるものは何かを考え、何故それらが鍵となりうるのかについても自分なりに考えてみること。	A・B	第11回	【テーマ】家族療法の理論 【計画内容】家族支援において、家族療法は必要不可欠ともいえる。家族療法の理論についてその概要を学ぶ。 【授業時間外の学修内容】家族療法について何かしら本を読んでおくこと。	A・B	
	第4回	【テーマ】家族の見立て(2)家族という集団の関係性に焦点を当てた心理支援の理論と方法 【計画内容】家族関係のアセスメントの仕方、考え方、その理論、方法について学ぶ。 【授業時間外の学修内容】自分の家族の家族関係について考えておくこと。自分の家族について開示したくない場合は、代わりの家族を用意しておくこと。	A・B	第12回	【テーマ】家族療法の技法について学ぶ 【計画内容】家族療法には様々な技法があるが、その主たるものについて学び、それらを活用して家族支援をどのようにしていくかを事例を通じて学ぶ。 【授業時間外の学修内容】変化の処方についてどのようなものがあるか、文献をあたってみること。	A・B	
	第5回	【テーマ】家族システム論と地域社会や集団・組織に働きかける心理学的援助に関する理論と方法 【計画内容】家族システム論の発展と概要についてと、その応用としての地域社会や集団・組織への心理学的援助の具体的方法や理論について学ぶ。 【授業時間外の学修内容】システムとはどんなものか、社会における様々なシステムについて考えておくこと。	A・B	第13回	【テーマ】家族の構造理論を家族理解に生かす 【計画内容】家族の構造の中で鍵となるものは何か。何をみて、どこに変化の処方をしていくかについて考える。 【授業時間外の学修内容】第5回で学んだ家族システム論について復習しておくこと。	A・B	
	第6回	【テーマ】家族の成り立ち　カップル・夫婦 【計画内容】家族がどのように作られていくか、個からカップルへの変化とその際に起こる様々な問題や軋轢についてとカップル支援について学ぶ。 【授業時間外の学修内容】個がカップルになるとどうなるか、変化について考えてみること。	A	第14回	【テーマ】実践編(1) 【計画内容】実際に様々な家族面接をロールプレイで実践していく。家族関係等集団の関係性に焦点を当てた心理支援としての相談、助言指導等への応用演習。 【授業時間外の学修内容】今までの授業の復習をしておくこと。	A・B	
	第7回	【テーマ】親になるということ 【計画内容】夫婦・カップルが誕生し、そこに子供が生まれることで起こる家族の変化について学ぶと同時に、乳幼児期の子育て支援について学ぶ。 【授業時間外の学修内容】子どもを持つことの意味、子育てについて考えてみること。	A	第15回	【テーマ】実践編(2) 【計画内容】地域社会や集団・組織に働きかける心理学的援助に関する相談、助言、指導等への応用を視野に入れた家族面接演習。 【授業時間外の学修内容】今までの授業の復習をしておくこと。	A・B	
	第8回	【テーマ】小学生の子育て 【計画内容】子どもが大きくなっていくにつれ、他家族との関係や、家族内に様々な変化が生まれるのか、そのような変化がおき、人はそれにどのように対処しているのか、そして我々支援者にできるこの時期の支援について学ぶ。 【授業時間外の学修内容】自分の小学校時代を振り返り、家族と自分の関係、他の家族との関係を考えておくこと。	A				
テキスト		プリントを使用します。					
参 考 書		中金洋子・野末武義・布芝靖、2008年、『家族心理学　家族システムの発達と臨床的援助』、有斐閣ブックス、9784641183674 団士郎、2013年、『対人援助職のための家族理解入門　家族の構造理論を活かす』、中央法規、9784805838600					
成績評価の方法	配　分	筆記試験	実技試験	課題評価	作品評価	受講態度	その他
	補　足	40%		40%		20%	
				5講義目ごとの小レポート		演習やロールプレイへの参加態度	
課題に関するフィードバックの方法		最終レポート以外は、第二日目、第三日目に小レポートを返却し、コメントする。					
実務経験と授業の関連		経　験　内　容					
		科目との関連					
質問への対応		質問は授業時間内で対応します。授業でわからないこと、疑問に思ったことはその場ですぐ質問してください。					
資　格		[臨]臨床心理士_選必、公認心理師_必修					
そ　の　他		集中講義で長丁場になりますが、頑張ってください。また、講師が一方的に話す授業ではなく、全員参加の授業を考えておりますのでワークなど積極的に参加してください。					

科 目 名			心理療法特論		授業形態	講義	単 位 数	2
教 員 名			入江 智也					
授 業 の 目 的	ねらい	臨床心理学的援助法は多様である。したがって本講義では、特に有効性が認められている技法について焦点を当て、その理論および実践について、具体的な臨床事例や援助計画の立案を通じて理解を深める。特に、(1)児童等を対象とした応用行動分析に基づく支援法、(2)養育者への支援、(3)認知行動療法に基づく支援法、の3点について、体験や事例を通じて、当該技法の実践手続きを習得する。						
	到達目標	(1)行動理論の考え方を理解し、アセスメントに用いることができる。 (2)児童、養育者への援助計画を立案、実践することができる。 (3)認知行動療法に基づいた介入計画を立案、実践することができる。 (4)心理療法の経過について客観的に評価することができる。						
授 業 の 計 画	第1回	【テーマ】心理療法の概要 【計画内容】心理療法の歴史を概観する。 【授業時間外の学修内容】心理療法について調べておくこと。	A	第9回	【テーマ】認知行動療法(3):認知行動モデルとケースフォーミュレーション 【計画内容】クライアントの抱える問題に応じた認知行動モデルの紹介とケースフォーミュレーションの方法について学習する。 【授業時間外の学修内容】事前に配付する当該テーマの資料を熟読しておくこと。	A・H		
	第2回	【テーマ】人びとの支援の行動理論 【計画内容】さまざまな心理療法の背景にある行動理論を学習する。 【授業時間外の学修内容】事前に配付する当該テーマの資料を熟読しておくこと。	A	第10回	【テーマ】認知行動療法(4):うつ病に対する認知行動療法 【計画内容】うつ病に対する認知行動療法について、事例を通じて学習する。 【授業時間外の学修内容】事前に配付する当該テーマの資料を熟読しておくこと。	A・H		
	第3回	【テーマ】応用行動分析に基づく支援 【計画内容】応用行動分析において登場する諸理論および諸技法について学習する。 【授業時間外の学修内容】事前に配付する当該テーマの資料を熟読しておくこと。	A・H	第11回	【テーマ】認知行動療法(5):不安症に対する認知行動療法 【計画内容】不安症に対する認知行動療法について、事例を通じて学習する。 【授業時間外の学修内容】事前に配付する当該テーマの資料を熟読しておくこと。	A・H		
	第4回	【テーマ】児童を対象とする支援と心理療法 【計画内容】応用行動分析を含む、児童および養育者への支援について学習する。 【授業時間外の学修内容】事前に配付する当該テーマの資料を熟読しておくこと。	A・H	第12回	【テーマ】介入計画の立案① 【計画内容】模擬事例に対する前半グループの介入計画を発表する。ディスカッションを通じて、認知行動療法に沿った介入計画の立案方法について学習する。 【授業時間外の学修内容】事前に配付する当該テーマの資料を熟読しておくこと。	A・H・N		
	第5回	【テーマ】児童期への援助計画の立案① 【計画内容】模擬事例に対する前半グループの援助計画を発表する。ディスカッションを通じて、援助計画の立案方法について学習する。 【授業時間外の学修内容】事前に配付する当該テーマの資料を熟読しておくこと。	A・H・N	第13回	【テーマ】介入計画の立案② 【計画内容】模擬事例に対する後半グループの介入計画を発表する。ディスカッションを通じて、認知行動療法に沿った介入計画の立案方法について学習する。 【授業時間外の学修内容】事前に配付する当該テーマの資料を熟読しておくこと。	A・H・N		
	第6回	【テーマ】児童期への援助計画の立案② 【計画内容】模擬事例に対する後半グループの援助計画を発表する。ディスカッションを通じて、援助計画の立案方法について学習する。 【授業時間外の学修内容】事前に配付する当該テーマの資料を熟読しておくこと。	A・H・N	第14回	【テーマ】近年の心理療法 【計画内容】マインドフルネスアプローチをはじめ、近年有効性が認められつつある新しい心理療法について学習する。 【授業時間外の学修内容】事前に配付する当該テーマの資料を熟読しておくこと。	A		
	第7回	【テーマ】認知行動療法(1):歴史的・理論的背景 【計画内容】認知療法および行動療法が提案された背景について学習する。 【授業時間外の学修内容】事前に配付する当該テーマの資料を熟読しておくこと。	A	第15回	【テーマ】心理療法における効果判定 【計画内容】心理療法を実施する際に、自身の取り組みを評価する方法について学習する。 【授業時間外の学修内容】これまでの講義資料等を再読しておくこと。	A		
	第8回	【テーマ】認知行動療法(2):認知行動療法における諸技法 【計画内容】認知行動療法において用いられる諸技法について体験および学習する。 【授業時間外の学修内容】事前に配付する当該テーマの資料を熟読しておくこと。	A・H					
テキスト	講義内容に応じてプリント等を使用します。							
参 考 書	講義内容に応じて適宜参考文献を紹介します							
成績評価の方法		筆記試験	実技試験	課題評価	作品評価	受講態度	その他	
	配分			50%		20%	30%	
	補足			最終レポート			毎回の感想等シート	
課題に関するフィードバックの方法	講義終盤において感想等シートを返却し、学んだ内容を振り返りながら講評をします。							
実務経験と授業の関連	該当	経 験 内 容	臨床心理士、公認心理師					
		科目との関連	臨床心理士、公認心理師としての実務経験をもとに実務に即した指導を行う。					
質問への対応	初回講義時に具体的に説明します。							
資 格	[臨]臨床心理士_選必							
そ の 他	日本臨床心理士資格認定協会の定めによる受講制限があります。							

科 目 名		学校臨床心理学特論(教育分野に関する理論と支援の展開)			授業形態	講義	単 位 数	2
教 員 名		山谷 敬三郎						
授 業 の 目 的	ねらい	教育分野に関わる公認心理師等の心理職としての実践を学ぶために、学校生活における児童生徒の学習面・心理・社会面、進路面、及び健康面についての諸問題に関してカウンセリング、コンサルテーション等の諸理論をふまえつつ、学校という場にふさわしい視点で対処するための理論と方法を活用できるよう実習を含めて展開する。特に実習では、「関わりづくりに関する実習」「傾聴実習」「カウンセリングプロセス・コンサルテーション・コーディネーションに関する包括的な実習」をとりあげ、人間関係の中で、子ども自身や援助者、また、組織の問題解決にあたる能力の基盤の獲得を目指す内容とする。						
	到達目標	(1)学校におけるカウンセリングの方法を習得する。 (2)学校におけるコンサルテーションの方法を習得する。 (3)学校におけるコーディネーションの方法を習得する。 (4)学校における心理教育的援助サービスの実践的課題についての知識・技能について習得する。 (5)子どもへの直接的な援助のかかわりについての基本的方法を習得する。						
授 業 の 計 画	第1回	【テーマ】オリエンテーション/学校カウンセリングの理論と方法 【計画内容】心理教育的援助サービスの基本的理論と方法を習得する。 【授業時間外の学修内容】参考図書の該当部分を事前に読んでおく。	L	第9回	【テーマ】学校におけるカウンセリングの技術(4) 【計画内容】質問技法、言い換え、励ましなどの技法を習得する。 【授業時間外の学修内容】参考図書の該当部分を事前に読んでおく。	L		
	第2回	【テーマ】学校で活用できるカウンセリングの理論と方法 【計画内容】認知カウンセリング、ブリーフセラピー、SGE、SST、マイクロカウンセリングの基本的方法を理解する。 【授業時間外の学修内容】参考図書の該当部分を事前に読んでおく。	L	第10回	【テーマ】学校におけるカウンセリングの技術(5) 【計画内容】感情の反映、コミットメントの方法など、傾聴の方法を習得する。 【授業時間外の学修内容】参考図書の該当部分を事前に読んでおく。	L		
	第3回	【テーマ】学校におけるコンサルテーション 【計画内容】校内委員会の運営、援助チームシートの作成について理解する。 【授業時間外の学修内容】参考図書の該当部分を事前に読んでおく。	L	第11回	【テーマ】学校におけるカウンセリングの技術(6) 【計画内容】具体的に模擬実習を取り入れ、学校カウンセリング・コンサルテーションの方法を習得する。 【授業時間外の学修内容】参考図書の該当部分を事前に読んでおく。	L		
	第4回	【テーマ】学校におけるコーディネーション 【計画内容】コーディネートの意味、校内資源の活用、専門機関との連携について理解する。 【授業時間外の学修内容】参考図書の該当部分を事前に読んでおく。	L	第12回	【テーマ】学校におけるカウンセリングの技術(7) 【計画内容】具体的に模擬実習を取り入れ、学校カウンセリング・コンサルテーションの方法を習得する。 【授業時間外の学修内容】参考図書の該当部分を事前に読んでおく。	L		
	第5回	【テーマ】学校における実践上の諸問題と対応 【計画内容】学級担任との連携、保護者への対応、学校組織への介入の方法について理解する。 【授業時間外の学修内容】参考図書の該当部分を事前に読んでおく。	L	第13回	【テーマ】学校におけるカウンセリングの技術(8) 【計画内容】具体的に模擬実習を取り入れ、学校カウンセリング・コンサルテーションの方法を習得する。 【授業時間外の学修内容】参考図書の該当部分を事前に読んでおく。	L		
	第6回	【テーマ】学校におけるカウンセリングの技術(1) 【計画内容】非言語的関わり技法(ペーシング、キャリブレーション)について習得する。 【授業時間外の学修内容】参考図書の該当部分を事前に読んでおく。	L	第14回	【テーマ】学校におけるカウンセリングの技術(9) 【計画内容】具体的に模擬実習を取り入れ、学校カウンセリング・コンサルテーションの方法を習得する。 【授業時間外の学修内容】参考図書の該当部分を事前に読んでおく。	L		
	第7回	【テーマ】学校におけるカウンセリングの技術(2) 【計画内容】エンカウンターについてのすすめ方を習得する。 【授業時間外の学修内容】参考図書の該当部分を事前に読んでおく。	L	第15回	【テーマ】学校におけるカウンセリングの技術(10)/まとめと確認 【計画内容】具体的に模擬実習を取り入れ、学校カウンセリング・コンサルテーションの方法を習得する。 【授業時間外の学修内容】参考図書の該当部分を事前に読んでおく。	L		
	第8回	【テーマ】学校におけるカウンセリングの技術(3) 【計画内容】ロールプレイング、心理劇のすすめ方を習得する。 【授業時間外の学修内容】参考図書の該当部分を事前に読んでおく。	L					
テキスト		伊藤美奈子・平野直巳編、2003年、『学校臨床心理学入門』、有斐閣アルマ						
参 考 書		学校心理士資格認定委員会、2007年、『学校心理学ハンドブック』、風間書房、9874759916256 國分康孝、2002年、『カウンセリングの理論』、誠信書房、4414403081 石隈利紀、1999年、『学校心理学』、誠信書房、4414301491						
成績評価の方法		筆記試験	実技試験	課題評価	作品評価	受講態度	その他	
	配 分 補 足			70% レポート			30% レポート毎回	
課題に関するフィードバックの方法								
実務経験と授業の関連	該当	経 験 内 容	公立学校スクールカウンセラー(SC)					
		科目との関連	SCの経験を生かしたカウンセリング、教育相談の実際の指導。					
質問への対応		初回講義時に具体的に説明します。						
資 格		[臨]公認心理師_必修						
そ の 他		毎時レポートを作成し、次の冒頭にフィードバックしている。						

科 目 名			認知心理学特論		授業形態	講義	単 位 数	2
教 員 名			阿部 純一					
授 業 の 目 的	ねらい	認知心理学の知見を学び、人間の心理と行動の基盤となっている認知メカニズムについて理解を深める。具体的には、感覚・知覚・記憶・学習・思考・言語などの認知諸機能の特性とメカニズムについて、どのようなことがどの程度まで説明されているかを学ぶ。また、その説明がどのような方法でなされて来ているかを学ぶ。						
	到達目標	(1)人間の認知諸機能の特性とメカニズムについて理解を深める。 (2)臨床心理学など他の心理学と認知心理学との関係について理解を深める。						
授 業 の 計 画	第1回	【テーマ】心理学の中での認知心理学の位置づけ 【計画内容】心理学は非常に幅の広い学問であり、基礎科学的な心理学、応用的な心理学、人文科学的な心理学など様々な細目的心理学を含む。その中での認知心理学の位置づけと役割について理解を深める。 【授業時間外の学修内容】過去に学んだ各分野の心理学の内容について整理しておく。	A	第9回	【テーマ】学習1 【計画内容】学習の能力があることにより、人間の心理と行動はより適応的に変化し拡大し、より複雑なものとなる。その学習のメカニズムについて学ぶ。 【授業時間外の学修内容】配付資料をあらかじめ読み、内容を理解しておく。	A・B		
	第2回	【テーマ】心理機能とその神経基盤 【計画内容】人間の心理と行動の生理的基盤の中心は中枢神経系である。近年の認知神経科学や認知神経心理学の知見について学ぶ。 【授業時間外の学修内容】配付資料をあらかじめ読み、内容を理解しておく。	A・B	第10回	【テーマ】学習2 【計画内容】学習に関する実験的知見と説明理論について学ぶ。また、それら基礎科学的研究成果の臨床的応用について学ぶ。 【授業時間外の学修内容】配付資料をあらかじめ読み、内容を理解しておく。	A・B		
	第3回	【テーマ】五感のしくみ 【計画内容】生得的に、また、モジュール的に備わる五感のメカニズムについて学ぶ。 【授業時間外の学修内容】配付資料をあらかじめ読み、内容を理解しておく。	A・B	第11回	【テーマ】言語 【計画内容】人間という動物を特徴づける心理機能の第一は言語といえる。言語理解のメカニズムについて学ぶ。 【授業時間外の学修内容】配付資料をあらかじめ読み、内容を理解しておく。	A・B		
	第4回	【テーマ】視感覚と聴感覚 【計画内容】五感の中の視感覚と聴感覚のメカニズムについてより詳しく学ぶ。 【授業時間外の学修内容】配付資料をあらかじめ読み、内容を理解しておく。	A・B	第12回	【テーマ】思考 【計画内容】問題解決や推論など、思考過程に関する知見について学ぶ。 【授業時間外の学修内容】配付資料をあらかじめ読み、内容を理解しておく。	A・B		
	第5回	【テーマ】知覚 【計画内容】感覚システムで処理された情報を利用して対象の認識に至る知覚のメカニズムについて学ぶ。 【授業時間外の学修内容】配付資料をあらかじめ読み、内容を理解しておく。	A・B	第13回	【テーマ】知能 【計画内容】知能とは何か、知能とはどう捉えられるべきか、について学ぶ。 【授業時間外の学修内容】配付資料をあらかじめ読み、内容を理解しておく。	A・B		
	第6回	【テーマ】注意と意識 【計画内容】我々人間は感覚受容器に入力された外界からの情報をすべて意識する(できる)わけではない。ごく一部の情報だけしか意識しない(できない)。この注意のメカニズムについて学ぶ。 【授業時間外の学修内容】配付資料をあらかじめ読み、内容を理解しておく。	A・B	第14回	【テーマ】心理学における研究法と統計技法 【計画内容】心理学において用いられている様々な研究手法を学ぶ。実験計画法、各種の測定手法、データ処理技法、認知モデリング技法について展望的に学ぶ。 【授業時間外の学修内容】配付資料をあらかじめ読み、内容を理解しておく。	A・B		
	第7回	【テーマ】記憶1 【計画内容】もしも記憶の機能がなければ“自分”という存在もない。記憶のメカニズムについて学ぶ。 【授業時間外の学修内容】配付資料をあらかじめ読み、内容を理解しておく。	A・B	第15回	【テーマ】復習とまとめ 【計画内容】全授業の復習とまとめを行う。 【授業時間外の学修内容】これまでの授業内容全体を復習しておく。	A・L		
	第8回	【テーマ】記憶2 【計画内容】記憶に関する実験的研究の知見、記憶障がいなどの症例研究の知見、記憶のメカニズムの説明理論などについて学ぶ。 【授業時間外の学修内容】配付資料をあらかじめ読み、内容を理解しておく。	A・B					
テキスト		講義時に説明します。						
参 考 書		D. マイヤーズ、2015年、『マイヤーズ心理学』、西村書店、978-4-89013-448-9 スーザン・ノーレン・ホークセマ、他、2015年、『ヒルガードの心理学 第16版』、金剛出版、477241438X Susan Nolen-Hoeksema, et al., 2014年、『Atkinson & Hilgard's Introduction to Psychology, 16e』、Cengage Learning、1408089025						
成績評価の方法		筆記試験	実技試験	課題評価	作品評価	受講態度	その他	
	配 分			50%		50%		
	補 足			レポート				
課題に関するフィードバックの方法		提出されたレポートに対して、コメントを戻します。						
実務経験と授業の関連		経 験 内 容						
		科目との関連						
質問への対応		授業中および授業後に質問を受け付け、対応します。メールによる質問も受け付けます。						
資 格		[臨]臨床心理士_選必						
そ の 他		学習への自主的意欲が基本です。						

科 目 名		社会心理学特論		授業形態	講義	単 位 数	2
教 員 名		栗林 克匡					
授 業 の 目 的	ねらい	社会心理学に関する研究の論文や書籍の講読と討論を通して、広範な社会心理学のトピックの理解および研究方法などについて学ぶことが目的である。 講読するテキストおよび論文のテーマは、なるべく社会心理学のトピックを全般的に網羅するよう配慮する。ただし、その中でも「自己開示と自己呈示」「対人不安」「社会的スキル」に関する3つのテーマはやや重点的に検討する。この3つのテーマは、社会心理学の視点から、臨床的な問題を考える上で有益なものである。					
	到達目標	(1)社会心理学の諸理論に関する基本的知識を身につける。 (2)社会心理学の基本的知識を臨床心理学領域へ応用する力および自身の研究活動に生かすことができる。					
授 業 の 計 画	第1回	【テーマ】授業のガイダンス 【計画内容】授業の紹介をし、15回の授業展開を説明します。 【授業時間外の学修内容】各自、自分の担当するテーマの心理学論文・書籍の収集と要約を行う。	A	第9回	【テーマ】攻撃行動(1) 攻撃とは 【計画内容】攻撃行動の定義、攻撃行動の分類について学びます。 【授業時間外の学修内容】各自、自分の担当するテーマの要約を行う。他のメンバーの発表内容について事前に確認する。	A・F	
	第2回	【テーマ】シャイネス(1) シャイネスとは 【計画内容】シャイネスの定義と分類について学びます。 【授業時間外の学修内容】各自、自分の担当するテーマの要約を行う。他のメンバーの発表内容について事前に確認する。	A・F	第10回	【テーマ】攻撃行動(2) 攻撃と怒りの制御 【計画内容】不適応をもたらす攻撃・怒りの制御の仕方について学びます。 【授業時間外の学修内容】各自、自分の担当するテーマの要約を行う。他のメンバーの発表内容について事前に確認する。	A・F	
	第3回	【テーマ】シャイネス(2) シャイネスの心理的特徴 【計画内容】シャイネスの高い者の心理的特徴(感情・認知・行動)について学びます。 【授業時間外の学修内容】各自、自分の担当するテーマの要約を行う。他のメンバーの発表内容について事前に確認する。	A・F	第11回	【テーマ】ソーシャル・サポート(1) ソーシャルサポートとは 【計画内容】ソーシャル・サポートの定義、分類について学びます。 【授業時間外の学修内容】各自、自分の担当するテーマの要約を行う。他のメンバーの発表内容について事前に確認する。	A・F	
	第4回	【テーマ】シャイネス(3) シャイネスの形成過程と介入 【計画内容】シャイネスの生起プロセスと治療の方策について学びます。 【授業時間外の学修内容】各自、自分の担当するテーマの要約を行う。他のメンバーの発表内容について事前に確認する。	A・F	第12回	【テーマ】ソーシャル・サポート(2) ソーシャルサポートの効果 【計画内容】ソーシャル・サポートのストレス緩和効果について学びます。 【授業時間外の学修内容】各自、自分の担当するテーマの要約を行う。他のメンバーの発表内容について事前に確認する。	A・F	
	第5回	【テーマ】自己開示(1) 自己開示とは 【計画内容】自己開示の定義、自己開示の効果について学びます。 【授業時間外の学修内容】各自、自分の担当するテーマの要約を行う。他のメンバーの発表内容について事前に確認する。	A・F	第13回	【テーマ】親密な関係(1) 恋愛関係の崩壊 【計画内容】恋愛関係の崩壊に伴う心理的特徴について学びます。 【授業時間外の学修内容】各自、自分の担当するテーマの要約を行う。他のメンバーの発表内容について事前に確認する。	A・F	
	第6回	【テーマ】自己開示(2) 自己開示と心理療法 【計画内容】自己開示を心理療法に応用する具体例について学びます。 【授業時間外の学修内容】各自、自分の担当するテーマの要約を行う。他のメンバーの発表内容について事前に確認する。	A・F	第14回	【テーマ】親密な関係(2) 死別 【計画内容】死別に伴う心理的特徴について学びます。 【授業時間外の学修内容】各自、自分の担当するテーマの要約を行う。他のメンバーの発表内容について事前に確認する。	A・F	
	第7回	【テーマ】社会的スキル(1) 社会的スキルとは 【計画内容】社会的スキルの定義、スキルの獲得過程について学びます。 【授業時間外の学修内容】各自、自分の担当するテーマの要約を行う。他のメンバーの発表内容について事前に確認する。	A・F	第15回	【テーマ】まとめ 【計画内容】これまで取り上げたテーマのふりかえりを行う。 【授業時間外の学修内容】これまで取り上げたテーマの、臨床場面での応用について考える。	B	
	第8回	【テーマ】社会的スキル(2) 社会的スキル・トレーニング 【計画内容】社会的スキル・トレーニングの実践について学びます。 【授業時間外の学修内容】各自、自分の担当するテーマの要約を行う。他のメンバーの発表内容について事前に確認する。	A・F				
テキスト		坂本真士 他編、2007年、『臨床社会心理学』、東京大学出版会、9784130111225					
参 考 書		ルイス・A・シュミット & ジェイ・シュルキン編著、2006年、『社会不安障害とシャイネス』、日本評論社、453598199X					
成績評価の方法		筆記試験	実技試験	課題評価	作品評価	受講態度	その他
	配 分 補 足					50% 討論への参加	50% 資料準備と発表
課題に関する フィードバックの方法		授業内で発表に対する講評を適宜行う。					
実務経験と 授業の関連		経 験 内 容					
		科目との関連					
質問への対応		初回講義時に説明します。					
資 格		[臨]臨床心理士_選必					
そ の 他		無断欠席、遅刻は慎むこと。					

科 目 名	臨床心理実習Ⅰ（心理実践実習Ⅱ）				授業形態	実習	単 位 数	8
教 員 名	風間 雅江、飯田 昭人、小坂 守孝、澤 聡一、新川 貴紀、入江 智也							
授 業 の 目 的	ねらい	本実習では、1年次の実習で学んだことを基礎として、さらに公認心理師および臨床心理士等の心理職として活動を行う上で必要な態度・技法を修得することを目的とする。担当教員および実習施設の指導者による指導のもと、心理アセスメントや心理面接、および集団心理療法等の心理臨床活動の実践を継続的に体験し、心理臨床の素養を確かなものにするをめざす。さらに、心理的支援を必要とする人およびその関係者への理解とニーズの把握および支援計画の作成等についても実践的に学ぶ。						
	到達目標	(1)心理臨床におけるコミュニケーション、心理療法(個人および集団)、心理アセスメント等についての知識を確実にしスキルを高め、心理臨床活動の実践に応用する。 (2)心理的支援を必要とする人およびその関係者への理解を深め、そのニーズを把握し、支援の方針ならびに計画をたてる能力を習得する。 (3)心理臨床の現場におけるチームアプローチ、多職種連携、および地域連携についての理解を深める。 (4)心理職としての職業倫理および法的義務を正しく理解する。						
授 業 の 計 画	【計画内容】 保健医療分野の学外実習施設として、精神科病院、総合病院、精神科クリニックのいずれか1か所の医療機関において60時間、学内実習施設として、本学臨床心理センターにおいて240時間、合計300時間を基準とした実習を行う。ただし、基準時間を上回って行われることがある。実習は時間割に記載された時間以外にも学内外で行われる。 事前指導は、実習施設での実習の準備として、1年次実習での体験をふまえつつ、ロールプレイなどにより面接技法の実技指導を行う。 実習は、本学臨床心理センターにおいては、ケース担当教員の指導のもと、思春期・青年期・成人期・高齢期のクライアントの心理面接(個人および集団)や心理アセスメントおよび幼児・児童のプレイセラピーや心理アセスメントを行う。学外実習施設での実習内容は、実習先の病院によって異なるが、実習指導者および巡回指導教員の指導のもと、成人を対象とした心理面接および集団精神療法、思春期・青年期のクライアントの心理面接、心理アセスメント等を予定している。 学内外の実習施設で担当ケースを継続的に担当するプロセスにおいて、ケース・フォーミュレーションに取り組み、クライアントをより深く理解し、有効な心理的支援の方法を精査するための検討を行う。 実習と並行して、全教員および1年次2年次全大学院生が参加するケースカンファレンスを頻度多く行い、担当ケースについて発表し、討議に参加する。 臨床心理センターが行う地域貢献事業にも参加し、地域の相談・研修拠点としての役割を学ぶ。 (全教員担当)							A・D・F・G・J・K・N
	【授業時間外の学修内容】 事前学習として、指導教員の指示に従い、実習にかかわる必要事項を整理すること。学外実習先の特徴、想定される対象等について、事前に情報を収集し、準備にあたること。 事後学習として、毎回の実習の振り返りの内容を実習日誌に記載し、心理的支援のあり方について洞察を深めること。実習報告会およびケースカンファレンスで学んだ多面的理解について論点を整理し、洞察を深めること。							
テキスト	オリエンテーション時に、実習要綱を配付します。また、指導内容に応じて追加資料を配付します。							
参 考 書	別途、案内します。							
成績評価の方法		筆記試験	実技試験	課題評価	作品評価	受講態度	その他	
	配 分			60%		30%	10%	
	補 足			所定の用紙あり			実習日誌綴	
課題に関するフィードバックの方法	学内外の実習にかかわる事前指導、事後ふりかえり、実習中における課題について、主に個別に指導を行います。							
実務経験と授業の関連	該当	経 験 内 容	保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働等の分野における心理援助職としての勤務経験					
		科目との関連	心理援助職としての勤務経験を活かし、理論と実践の双方からの専門的知識とスキルの教授を行う。					
質問への対応	初回講義時に説明します。							
資 格	〔臨〕臨床心理士_必修、公認心理師_必修							
そ の 他	学外実習施設の実習日程は、各実習施設により異なります。詳細決定後、各担当教員と具体的な打合せを行います。日本臨床心理士資格認定協会の定めによる受講制限があります。							

科目名		臨床心理実習Ⅱ			授業形態	実習	単位数	1
教員名		小坂 守孝、飯田 昭人、入江 智也、風間 雅江、澤 聡一、新川 貴紀、斉藤 美香、谷中 みゆき						
授業の目的	ねらい	本実習では、心理職としての成長に不可欠なスーパービジョンを継続的に受けることを通して、心理臨床の実践にかかわる適切な認識や洞察を得ることをめざす。心理臨床の経験豊かな学外スーパーバイザーおよび学内指導教員をスーパーバイザーとして、実習生はスーパーバイザーの立場から、現場実習での体験から生まれた問題を解決し、自己覚知を深めるために、スーパービジョンを受ける。						
	到達目標	(1)スーパービジョンを通して、心理臨床家として望まれる態度、技術的能力について再考し、自分自身の資質、技量について問う姿勢を身につける。 (2)臨床現場での体験(出来事)を、多面的な視点で捉え、考察できることを目指す。						
授業の計画		【計画内容】 主に学内外の実習施設で体験した臨床実践について、学内外のスーパーバイザーから、通年で45時間のスーパービジョンを受ける。学生個々の学内外の実習の進捗状況に応じて、原則として個別、場合によっては集団の形態で(グループスーパービジョン)展開される。 スーパービジョンのテーマは、臨床実習における担当ケースに関する心理療法やアセスメントに関する内容に限らず、臨床場面におけるスーパーバイザーの発言、態度、ふるまい、思考、感情といった面接場面でおこるあらゆる内容が含まれ、検討される。スーパービジョンを通して、スーパーバイザーは、それまで自身では気づかなかった側面についても自己理解を深め、心理臨床に及ぼす自身の有り様の影響についても考察する。そうしたプロセスを経て、クライアントへのより深い理解、クライアントに即した適切な関わり方について学んでいく。 学外スーパーバイザーによるスーパービジョンは、最低基準として9時間、個別面接のかたちで行われる(担当：斉藤美香・谷中みゆき)。学内指導教員によるスーパービジョンは36時間である(担当：小坂守孝・飯田昭人・入江智也・風間雅江・澤聡一・新川貴紀)。ただし、この時間を上回って行われることがある。スーパービジョンは、時間割に提示された時間以外にも行われる。 【授業時間外の学修内容】 あつかわれるテーマについて問題を整理し、必要なレジュメ等を作成し、準備にあたること。 【事後学習の内容】 毎回、スーパーバイザーから受けた助言やコメントを参考に振り返りを行い、実習日誌を作成し次回への手がかりとすること。						J・L・N
テキスト		オリエンテーション時に、実習に関する要綱を配付します。また指導内容に応じて資料を配付します。						
参考書		指導内容、学習項目に則して、授業時に文献を紹介します。						
成績評価の方法		筆記試験	実技試験	課題評価	作品評価	受講態度	その他	
	配分			60%		30%	10%	
	補足			所定の用紙あり			実習日誌綴	
課題に関するフィードバックの方法								
実務経験と授業の関連	該当	経 験 内 容	担当者全員が心理職経験あり。					
		科目との関連	実務経験に基づき実践に即した指導を行う。					
質問への対応		内容に応じて、直接面談、電話、メール等、適切に対応します。詳細は、初回授業時に説明します。						
資 格		[臨]臨床心理士_必修						
そ の 他		スーパービジョンは個別あるいは集団で行います。フィードバックは都度、行います。 日本臨床心理士資格認定協会の定めによる受講制限があります。						

科 目 名		修士論文指導Ⅱ		授業形態	演習	単 位 数	2
教 員 名		担当教員					
授 業 の 目 的	ねらい	修士論文作成をねらいとする。以下の5つのプロセスにしたがって進める。 ①先行研究を熟読する。クリティカルリーディングを行い、問題意識を明確にする。 ②研究のテーマを設定する。 ③研究の方法を考え、研究計画を立案する。 ④データを収集する。 ⑤データ分析する。					
	到達目標	(1)問題意識を明確にし、研究テーマを設定する。 (2)研究の方法を考え、研究計画を立案する。 (3)データを収集し、分析する。					
授 業 の 計 画	【テーマ】 第1回：ガイダンス(修士論文指導教員) 第2回～第4回：先行研究のレビューと研究目的の明確化(修士論文指導教員) 第5回～第7回：合理的な研究手法と研究計画の立案(修士論文指導教員) 第8回～第9回：研究計画の発表(修士論文指導教員) 第10回～第13回：データの収集(修士論文指導教員) 第14回～第15回：データの分析とディスカッション(修士論文指導教員)	A・B・F・G					
	【計画内容】 第1回：修士論文作成のための手順、ポイントを概説する。(修士論文指導教員) 第2回～第4回：先行研究で得られている知見を整理し、新たに解明しようとすることを焦点化し、研究目的を明確に設定する。(修士論文指導教員) 第5回～第7回：目的に見合った合理的で倫理的配慮の検討がなされた研究手法を考案し、具体的な研究計画を立案する。(修士論文指導教員) 第8回～第9回：修士論文作成プランおよび研究計画を発表し、議論する。(修士論文指導教員) 第10回～第13回：データを収集する。(修士論文指導教員) 第14回～第15回：データの分析、分析結果の整理、仮説に照らした考察を行う。(修士論文指導教員) 【授業時間外の学修内容】 第1回：「修士論文指導Ⅰ」で修得した内容をもとに、大まかな研究計画を作成する。 第2回～第4回：先行研究を収集し、何が明らかになっているのか、何がこのされた課題かを考え、研究目的を明確にする。 第5回～第7回：先行研究、具体的方法までも含めて、レポートを作成する。 第8回～第9回：研究計画、用いる研究手法の詳細についてレジュメおよびスライド資料を作成し、発表の準備を行う。プレゼンテーションを行い、質疑応答を通して、研究計画の性差および必要に応じた修正を行う。 第10回～第13回：研究手法に準じて、質問紙やインタビューガイド等の準備を行い、実際に調査を実施する。 第14回～第15回：収集したデータに対して、コンピュータ処理等を行い、分析する。						
テキスト	各担当教員より適宜指示します。						
参 考 書	各担当教員より適宜紹介します。						
成績評価の方法		筆記試験	実技試験	課題評価	作品評価	受講態度	その他
	配 分			60%		40%	
	補 足			レポート		発表	
課題に関するフィードバックの方法	個別指導でのフィードバック、ならびに中間報告会での専攻教員全員からのコメントを通してディスカッションを行います。						
実務経験と授業の関連	該当	経 験 内 容	医療、保健、教育、福祉等の領域における心理援助職としての勤務等				
		科目との関連	心理援助職としての臨床経験を、臨床心理学領域の修士論文研究の指導に活かす。				
質問への対応	各担当教員より説明します。						
資 格							
そ の 他							

科 目 名		修士論文指導Ⅲ			授業形態	演習	単 位 数	2
教 員 名		担当教員						
授 業 の 目 的	ね ら い	修士論文の完成、最終的な研究成果を研究発表会や学会等で発表することをねらいとする。以下の7つのプロセスにしたがって研究成果をまとめる。 ①先行研究で得られた知見の整理を通して問題意識を明確に述べる。 ②研究のテーマと意義を明確にする。 ③合理的で妥当な研究方法を選択する。 ④データを収集する。 ⑤データを分析する。 ⑥論文を執筆する。 ⑦論文を発表する。						
	到達目標	(1)データを収集する。 (2)データを分析する。 (3)分析結果をまとめ、論理的に考察する。 (4)論文を執筆する。 (5)研究成果を発表する。						
授 業 の 画	授 業 の 画	【テーマ】 第1回：ガイダンス(修士論文指導教員) 第2回～第4回：データの収集(修士論文指導教員) 第5回～第6回：データファイルの作成(修士論文指導教員) 第7回～第8回：データの分析(修士論文指導教員) 第9回～第10回：結果をまとめ論理的に考察する。(修士論文指導教員) 第11回～第14回：論文を執筆し完成させる。(修士論文指導教員) 第15回：論文発表(修士論文指導教員) 【計画内容】 第1回：修士論文作成のための手順、ポイントを確認する。(修士論文指導教員) 第2回～第4回：データ収集のための準備を行う。(修士論文指導教員) 第5回～第6回：集めたデータに対して、量的研究あるいは質的研究それぞれに応じ、適切な分析手法によってデータファイル化あるいはコード化等を行う。(修士論文指導教員) 第7回～第8回：ファイル化やコード化等の加工がなされた量的あるいは質的データに対して、研究デザインに応じた分析を進める。(修士論文指導教員) 第9回～第10回：出力結果を図表等にまとめ、考察を行う。(修士論文指導教員) 第11回～第14回：得られた知見をもとに、論理展開の順序、事実と意見の区別に留意しながら、論文を作成する。ディスカッションを通して考察を深める。(修士論文指導教員) 第15回：修士論文発表会にむけてプレゼンテーションの準備を行う。(修士論文指導教員) 【授業時間外の学修内容】 第1回：研究計画の精査と確認を行う。 第2回～第4回：実験材料の準備、質問紙の作成、調査依頼等を検討する。 第5回～第6回：データの確認、欠損値の処理等を行う。 第7回～第8回：出力結果について妥当な結果が得られたかどうか等を検討する。 第9回～第10回：何が明らかになったか、具体的事実を確認し、考察を行う。 第11回～第14回：得られた事実から、何がいえるか、何がわからないかを考える。 論文執筆を進める。推敲を繰り返し、論理的で明快な表現になっているか等をチェックする。 第15回：研究発表にむけてレジュメやスライド資料を作成する。						A・B・F・G
	授 業 の 画							
テキスト		各担当教員より適宜指示します。						
参 考 書		各担当教員より適宜紹介します。						
成績評価の方法		筆記試験	実技試験	課題評価	作品評価	受講態度	その他	
	配 分			60%		40%		
	補 足			レポート		口頭発表		
課題に関するフィードバックの方法		個別指導でのフィードバック、ならびに修士論文発表会等での専攻教員全員からのコメントを通してディスカッションを行います。						
実務経験と授業の関連	該当	経 験 内 容	医療、保健、教育、福祉等の領域における心理援助職としての勤務等					
		科目との関連	心理援助職としての臨床経験を、臨床心理学領域の修士論文研究の指導に活かす。					
質問への対応		各担当教員より説明します。						
資 格								
そ の 他								

講義要綱
SYLLABUS
北翔大学大学院

2022年 4 月 発行
北翔大学・北翔大学短期大学部
〒069-8511 江別市文京台23番地
TEL (011) 386-8011
FAX (011) 387-1542

